

授業科目 (履修区分)	農業機械学 (選択科目)	担当教員	安原 好一
対象年次	研究科2年	期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>農業機械の基礎的な構造や特性について理解を深め、安全かつ効率的な農作業の知識・技術の習得を目標にする。</p> <p>各種の作業に利用されている乗用トラクタの基本的な構造・機能を学ぶとともに、実技を通じ運転方法や作業方法の習得を図る。</p> <p>また、点検・整備の方法やスマート農機等の高性能農機に関する知識・実用性についても理解を深め、農作業や農業経営の改善につながる内容とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 農業と農業機械</li> <li>2 農業機械の利用と現状</li> <li>3 農業機械の安全作業</li> <li>4 トラクタの構造と操作</li> <li>5 原動機の構造と整備</li> <li>6 内燃機関</li> <li>7 電動機、伝動装置</li> <li>8 作業機の構造と利用</li> <li>9 耕うん整地用機械の構造と操作</li> <li>10 防除用機械の操作と利用</li> <li>11 各種作業機の構造と利用（稲作、野菜・畑作、飼料作物用）</li> <li>12 農業機械の利用と機械化体系</li> <li>13 スマート農業の展開、農業機械の効率的利用</li> <li>14 農業機械学まとめ</li> <li>15 試験</li> </ol>		
教科書 参考書	「農業機械」 著作者 米川智司 発行所 実務出版株式会社		
成績評価 の方法	試験結果 (50%) 取り組み姿勢 (※50%) により評価する。 ※欠席がなく研鑽に励む姿勢		
備 考			

授業科目 (履修区分)	家畜解剖学 (選択科目)	担当教員	岩 淵 功
対象年次	研究科 2 年	期 別	令和 8 年度 後期
単 位 数	2 単位	時 間 数	3 0 時間
教育目標	家畜体の構造の仕組みを知ることによって、その生理機能を立体的に理解する。そして家畜体の利用方法に役立てる。		
授業内容	1 家畜の進化と特徴・人との体型比較 2 骨格：各部（頭蓋）と連結・形態 3 骨格：各部（胴骨）と連結・形態 4 骨格：各部（肢骨、歯）と連結・形態 5 筋肉の役割、構造・分類 6 消化器：口腔、咽頭、胃 7 消化器：腸、肝臓、脾臓 8 食肉の特性と枝肉の格付・と場 9 泌尿器：腎臓、尿路、生殖器 10 循環路：心臓、血管、リンパ管 11 呼吸器：肺、気管 12 神経系、感覚器：脳、神経、眼球、耳 13 内分泌系、外皮：ホルモン、皮膚・角質器 14 まとめ 15 試験		
教科書 参考書	家畜比較解剖図説（養賢堂） 図説基礎動物生理学（アドスリー）		
成績評価 の方法	期末試験により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	大家畜論 (選択科目)	担当教員	新城 恒二
対象年次	研究科2年	期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>大家畜に関する特性や肥育・飼養技術等、実践的かつ専門的な知識を習得する。</p> <p>大家畜の動物分類学的位置と特性及び栄養生理学的特性について学ぶ。さらに、繁殖・泌乳及び肥育技術等飼養管理技術、衛生管理技術等について学び、大家畜（主に牛）による畜産経営について理解醸成を図る。</p>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大家畜の位置付け、家畜化とその要因</li> <li>2 大家畜の品種と特徴</li> <li>3 牛の登録及び審査方法</li> <li>4 反芻家畜の胃の構造と働き</li> <li>5 酪農経営と乳用牛の飼養管理方法</li> <li>6 肥育牛経営と肉用牛の飼養管理方法（乳用種・肉用種）</li> <li>7 和牛繁殖経営と繁殖和牛の飼養管理方法</li> <li>8 飼料の種類と特徴</li> <li>9 飼料の給与と消化吸收</li> <li>10 繁殖機能と生理</li> <li>11 妊娠の成立機能と分娩</li> <li>12 放射能汚染が経営に及ぼす影響</li> <li>13 口蹄疫等悪性伝染病が経営に及ぼす影響</li> <li>14 牛海綿状脳症（BSE）の現状</li> <li>15 全体評価（評価試験）</li> </ol>		
教科書 参考書	<p>家畜人工授精講習会テキスト （一般社団 日本人工授精師協会 2015年版）</p> <p>家畜飼育の基礎 （一般社団法人 農山漁村文化協会 2014年版）</p> <p>主に教科書を使用し、授業内容によってプリント配布</p>		
成績評価 の方法	レポート（概ね20%）、評価試験（概ね80%）により評価する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	有害鳥獣対策講座 (専門教育・共通選択)		担当教員	浅田 正彦	
対象年次	農学科1年 農学科2年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	1単位	講義 : 0.5 単位	時 間 数	24時間	
		実習 : 0.5 単位			
授業の目的 及び概要					
授業の到達 目標	檻、わな猟免許の取得ができる講座 (座学と実習)				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
テキスト					
成績評価 の方法					
備 考					

ウ 専攻実習

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (必修科目)	担当教員	各専攻 教員
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	各専攻教室に所属し、農畜産物の生産や調査を通じて生産技術・加工利用・課題等について学習するとともに、研究成果（課題研究）に取り組み、問題解決能力を高める。		
授業内容	<p>次の11専攻教室に所属し、その専攻教員の指導により専門的な実習に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 作物専攻教室</li> <li>2 露地野菜専攻教室</li> <li>3 施設野菜専攻教室</li> <li>4 果樹専攻教室</li> <li>5 花卉専攻教室</li> <li>6 畜産専攻教室</li> <li>7 生物工学専攻教室</li> <li>8 病害虫専攻教室</li> <li>9 土壌肥料専攻教室</li> <li>10 食品加工専攻教室</li> <li>11 情報経営専攻教室</li> </ol>		
教科書 参考書	各専攻教室 必要により資料提供		
成績評価 の方法	各専攻教室 必要により資料提供		
参考図書			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（作物） (必修科目)	担当教員	藤井 雄樹 太田 和也
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>代表的な食用作物（水稲、ムギ類、マメ類、イモ類他）の栽培技術、収穫調製方法、貯蔵方法等について学習し、経済性や収量向上等の応用的な内容も習得する。スマート農業等による省力化技術やGAPに関する知識を習得し、その活用方法を学ぶ。</p> <p>食用作物の栽培管理・育苗技術、収穫調製技術、貯蔵技術を習得し、栽培技術の高位化を目指す。また、経済的な作物生産についても知見を深める。</p>		
授業内容	<p>1 水稲および畑作物の栽培管理技術 水稲、マメ類、イモ類、その他穀類の栽培計画を立て、ほ場準備、育苗、管理、収穫の流れと必要な技術を学ぶ。</p> <p>2 農業機械の操作方法、穀物の乾燥調製方法 ほ場準備や管理、収穫に必要な農業機械の操作方法、穀類の乾燥調製方法、貯蔵方法を学ぶ。</p> <p>3 経営能力の向上 10aあたりの粗収量や売上を数値で把握し、理解することで、実際の経営時に求められる算出方法を学ぶ。最終的には収益を計算し、農業経営を行う能力養成につなげる。</p> <p>4 水稲および畑作物の販売方法 学校直売や社稷祭を通じて、販売方法を学ぶ。</p> <p>5 農産物生産工程管理 GAPで認証の経験を活かし、農場の実情に合った労働安全や衛生管理方法、記録体制等の農場運営方法を学ぶ。</p>		
教科書 参考書	必要により資料提供		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（70%）、技術・知識の習得状況（30%）		
備 考	<p>参考図書：「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病虫害雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）</p>		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（露地野菜） (必修科目)	担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>農学科等で学んだ知識を基礎に、ほ場における実際栽培を学ぶ。          主要な露地野菜と無加温ハウスで栽培される野菜の生理生態や肥培管理及び出荷調製技術等を学習する。</p> <p>また、研究科生として、専門的知識はもとより、地域農業のリーダーや指導者としての資質向上を図る。</p>		
授業内容	<p>1 野菜に関する知識の習得          (1)野菜の分類と栽培方法          (2)野菜の作付（輪作）計画と収支計算          (3)周年栽培や端境期に出荷するための栽培技術          (4)播種から販売までの実践</p> <p>2 栽培管理技術の習得          (1)果菜類、豆類の品種特性、肥培管理、病虫害防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を深める。          (2)葉茎菜類の育苗管理、肥培管理を習得する。          (3)軟弱野菜の周年栽培技術を習得する。          (4)根菜類、いも類の品種特性やマルチ利用効果の理解を深める。</p> <p>3 GAPやスマート農業等に対する理解促進、効率的かつ適正な作業環境・作業方法の習得</p>		
教科書 参考書	適宜資料を配布		
成績評価 の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	<p>参考図書：「野菜栽培の基礎」、「新野菜つくりの実際（第2版）」（社団法人 農山漁村文化協会）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）</p>		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（施設野菜） (必修科目)	担当教員	江口 菜 江澤 和哉
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>トマト・キュウリ・メロン・イチゴ等の施設野菜の栽培を通じ、栽培管理技術と販売等の経営管理技術を学び、経営管理能力を習得する。</p> <p>施設野菜に関する生理生態・栽培管理技術を理解する。</p> <p>農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。</p> <p>施設野菜産地の現状や課題を把握する。</p>		
授業内容	<p>1 野菜に関する知識の習得</p> <p>(1) 施設野菜の分類と栽培方法</p> <p>(2) 施設野菜の育苗と栽培管理</p> <p>(3) 病害虫の診断と対処法</p> <p>(4) 環境負荷に考慮した栽培方法</p> <p>(5) 農業生産工程管理・スマート農業・環境制御技術</p> <p>2 栽培管理技術の習得</p> <p>(1) 果菜類（トマト・キュウリ・イチゴ・スイカ等）の品種特性、肥培管理、病害虫防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。</p> <p>(2) 葉茎菜類（コマツナ・ホウレンソウ等）の栽培管理、肥培管理を習得する。</p> <p>3 知識や技術の実践力の体得</p> <p>(1) 学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践</p> <p>4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養</p> <p>(1) 千葉県施設野菜産地の現状と課題の把握</p>		
教科書 参考書	適宜資料配布		
成績評価 の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（果樹園芸専攻） (必修科目)	担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>県主要品目であるニホンナシ、ビワを中心に、年間を通して果樹栽培に必要な知識と技術を習得する。</p> <p>実習は、作業内容の説明や技術的な講義を事前に実施し、理論的な思考と実践を組み合わせることで理解度の向上を促す。</p> <p>ニホンナシの生理生態や栽培技術及び品質管理技術について理解する。</p> <p>その他の果樹について栽培技術を理解する。</p> <p>千葉県内の果樹産地の現状や課題を把握する。</p> <p>農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。</p>		
授業内容	<p>1 果樹に関する知識の習得</p> <p>(1) 果樹の栽培方法</p> <p>(2) 果樹の繁殖法と果実の品質管理</p> <p>(3) 病害虫の診断と対処法</p> <p>(4) 農業生産工程管理、スマート農業機械</p> <p>2 栽培管理技術の習得</p> <p>(1) 落葉果樹（ナシ・ブルーベリー・ブドウ）の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。</p> <p>(2) 常緑果樹（ミカン・ビワ等）の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。</p> <p>3 実践力の習得</p> <p>(1) 課題研究対象品目の栽培管理の実践</p> <p>(2) その他の果樹の栽培管理の実践（共同管理）</p> <p>4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養</p> <p>(1) 千葉県果樹産地の現状と課題の把握</p>		
教科書 参考書	適宜資料配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢(実習ノート含む) (80%)、技術・知識の習得状況 (20%)		
備 考	<p>・実習ノートを適宜提出し、実習の理解度について確認する。</p> <p>参考図書 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)</p>		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（花き園芸） (必修科目)	担当教員	田川 和泉 永山 春菜 田川 真子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>花き栽培における基幹作物の栽培をとおして、栽培管理の基礎、生理生態的特徴、温室などの施設管理の基本を学び、花き栽培の実践的能力を養う。また、スマート農業技術やMPS-ABCの理念を学習する。</p> <p>主要な花き栽培に関する知識・技術の習得 県内花き農業の現状に即した経営管理能力の習得</p>		
授業内容	<p>1 花き栽培に関する知識の習得</p> <p>(1) 名称・分類 (2) 栽培計画 (3) 施肥設計 (4) 播種・育苗管理 (5) 病虫防除技術 (6) 温室管理技術 (7) 灌水方法 (8) 除草</p> <p>2 栽培管理技術の習得</p> <p>(1) 鉢花、切り花、花壇苗等の栽培技術 (2) 特定の出荷日を目指した開花調節 (3) 施設の管理方法、機械の操作技術</p> <p>3 知識や技術の実践力の体得</p> <p>(1) 効率的な出荷調整技術 (2) 生産した花きを活用した装飾技術 (3) 試験・調査方法</p> <p>4 高度な農業経営管理能力の習得</p> <p>(1) スマート農業技術の習得 (2) MPS-ABC 認証をとおした環境負荷低減</p> <p>5 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養</p> <p>(1) 千葉県花き産地の現状と課題の把握</p>		
教科書 参考書	「草花栽培の基礎」、「花卉園芸学の基礎」「花の小事典」、「農業技術体系」 (社団法人農山漁村文化協会)		
成績評価 の方法	取組み姿勢、知識・技術の習得状況		
備 考			
授業科目	専攻実習（畜産）	担当教員	伊藤 香葉

(履修区分)	(必修科目)		吉田 早希
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	22単位	時間数	660時間
教育目標	<p>農学科で学んだ基礎的知識を基に、畜産全般における専門的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>乳用育成牛等反芻動物の飼育繁殖管理、肥育繁殖豚、採卵鶏の飼育管理と疾病の対応、家畜の衛生管理（流行性人畜共通伝染病）を学ぶ。</p> <p>また、研究科生として専門的知識はもとより、地域農業のリーダーとしての資質の養成や指導者としての実践力のかん養を図る。</p> <p>畜産に関する専門知識の習得  高度な家畜繁殖技術・衛生管理技術の習得  地域農業のリーダー及び指導者としての実践力のかん養</p>		
授業内容	<p>1 畜産に関する専門知識の習得</p> <p>(1)家畜の分類と飼育管理方法  (2)家畜の系統造成等に関する知識の習得  (3)飼料用牧草地の管理と牧草の育生方法  (4)環境に配慮した農業やスマート農業技術習得  (5)アニマルウェルフェアによる飼育管理方法の技術習得</p> <p>2 家畜繁殖技術・衛生管理技術の習得</p> <p>(1)高度な繁殖技術（AI、受精卵移植技術等）の基本知識習得  (2)家畜伝染病の診断と衛生管理方法</p> <p>3 地域農業のリーダー及び指導者としての実践力の涵養</p> <p>学生ごとの圃場や家畜の飼育管理の実践</p>		
教科書	「家畜飼育の基礎」阿部亮他（農山漁村文化協会/2008）		
成績評価の方法	<p>評価配分は以下の通りとする。</p> <p>○出席状況:40%  ○実習態度:40%  ○技術・知識の習得状況:20%</p>		
備考	<p>参考図書</p> <p>日本飼養標準（中央畜産会/乳牛2017、肉用牛2022、豚2013、家禽2011）</p> <p>日本標準飼料成分表（中央畜産会/2009）</p> <p>千葉県畜産総合センター研究報告書</p>		

授業科目	専攻実習（生物工学）	担当教員	中田 菜々子
------	------------	------	--------

(履修区分)	(必修科目)		
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度2か年通年
単位数	22単位	時間数	660時間
教育目標	各自の研究テーマに合わせた試験研究を計画実行し、技術を習熟する。 また、テーマ以外の生物や生物工学的的手法についても理解し習得する。 組織培養技術の習熟する。		
授業内容	1 無菌操作技術の習熟 クリーンベンチの使用法、実験器具の滅菌方法 2 植物組織培養技術の習熟 培地設計、外植体の摘出、培養経過の調査方法、増殖、順化 3 実験植物等の栽培技術の習熟 (1) 圃場・温室の管理方法 (2) 実験植物の播種・育苗・かん水・温度管理・病害虫管理方法 4 農業分野における生物工学的手法の習得 ウイルスフリー苗の生産、クローン苗の大量生産 5 文献等情報収集法の習熟 (1) 課題に関連する学術論文等の検索方法 (2) 学術論文の読み方 6 実験スケジュールの管理 随時実験スケジュールを見直し、計画的に実験を進める 7 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 農学科学生の圃場作業及び実験の補助等を通じコミュニケーション能力や説明能力を向上する		
教科書 参考書	実習内容によって適宜関連文献等を配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (50%)、知識・習熟度 (50%)		
備考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (病虫害) (必修科目)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	病虫害に関する知識向上のため、病虫害専攻教室ほ場において実際の栽培や病虫害の発生生態、防除方法を学ぶ。また、各自のテーマに合わせた調査研究の実施とその結果の取りまとめを行う。		
授業内容	<p>1 病虫害の発生生態や管理技術等に関する知識の習得</p> <p>(1) 農作物の病虫害の診断・同定、生理生態</p> <p>(2) 農作物害虫と天敵の見分け方、天敵の分類、生態等</p> <p>(3) 総合的病虫害・雑草管理 (IPM) の考え方</p> <p>(4) IPM を念頭に置いた病虫害管理技術とその実践方法</p> <p>(5) IPM の実践における経営的な評価</p> <p>2 栽培管理技術の習得、病虫害や天敵の増殖技術等の習得</p> <p>(1) 農作物の播種、育苗技術の習得</p> <p>(2) 農作物の栽培技術及び収穫方法の習得</p> <p>(3) 農作物の病虫害管理技術の習得</p> <p>(4) 病虫害や天敵の飼育・増殖方法等の習得</p> <p>3 知識や技術の実践力の体得</p> <p>試験設計、試験区の設定、調査方法、データの集計方法、解析方法、プレゼンテーション方法の習得及び実践</p> <p>4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養</p> <p>(1) 農学科学学生の圃場作業及び実験の補助</p> <p>(2) 地域実践活動を通じて、高いコミュニケーション能力や信頼関係の構築</p>		
教科書 参考書	実習内容によって適宜関連文献等を配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (50%)、知識・習熟度 (50%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（土壌肥料） (必修科目)	担当教員	高田 伯約
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>環境に配慮した農業経営に必要な知識や土壌管理技術等を学習し、有機質肥料の作成や土壌診断の読み取り等の実習を通じて、将来を見据えた土壌改善の取り組みについて理解を深める。</p> <p>環境保全型農業の取組を理解し、有機質肥料の活用や土壌改善の取り組みを中心とした栽培管理技術を習得することを目標とする。</p>		
授業内容	<p>1 土壌管理に係る知識の習得</p> <p>(1) 土壌分析方法</p> <p>(2) 土壌分析を基にした施肥設計及び栽培管理</p> <p>(3) 収量調査、土壌調査、その他の調査（食味調査等）</p> <p>(4) 栽培後の管理</p> <p>2 栽培管理技術の習得</p> <p>(1) 栽培品目の品種特性を理解し、適切な施肥設計や病虫害防除等の基本的な栽培技術を習得する。</p> <p>(2) 環境に配慮した農業経営に係る栽培技術を習得する。</p> <p>3 実践力の体得</p> <p>(1) 課題研究対象品目の栽培管理及び土壌改善の実践</p> <p>(2) その他品目の栽培管理及び土壌改善の実践</p> <p>4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養</p> <p>(1) 千葉県における環境に配慮した農業経営の現状と課題の把握</p>		
教科書 参考書	適宜資料配布		
成績評価 の方法	実習態度（80%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）、「農業技術体系」、「土と施肥の新技术」、「みんなの有機農業技術大辞典」（社団法人 農山漁村文化協会）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習（食品加工） (必修科目)	担当教員	宮城 美紀子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>食品加工では、農作物の生産（1次産業）だけではなく、製造・加工（2次産業）、販売（3次産業）にむけて取り組み、農産物に新しい付加価値をつけ、農業所得の向上に向け6次産業化への研究を行い、地域農業のリーダー及び指導者として、新しい地域産業を創出する取り組みを目指す。</p> <p>6次産業化事例から、現状と課題を把握する。</p> <p>学校圃場や地域の農産物を教材として、その加工特性、加工貯蔵技術を習得する。</p> <p>農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 6次産業化に取り組む事例の現状と課題の把握</li> <li>2 地域農業の現状や問題点の把握及び課題解決手法の把握</li> <li>3 食品加工専攻圃場での基本的な野菜栽培技術の習得</li> <li>4 実践力の体得 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 農産加工原料の特性と加工方法の習得</li> <li>(2) 貯蔵の技術習得</li> <li>(3) 生産工程管理の基本と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実践</li> </ol> </li> <li>5 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 千葉県における6次産業化等の経営の現状と課題の把握</li> </ol> </li> </ol>		
教科書 参考書	適宜資料配布		
成績評価 の方法	実習態度（80%）、技術・知識の習得状況（20%）		
備 考	参考図書 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）「農作物病害虫雑草防除指針」（千葉県農林水産部環境農業推進課）、「農業技術体系」（社団法人 農山漁村文化協会）		

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (情報経営) (必修科目)	担当教員	菅澤 太地
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	22単位	時 間 数	660時間
教育目標	<p>圃場での栽培および持続可能な農業経営を行うための分析手法を学ぶことで、農業現場の課題解決に必要な課題解決能力および法人運営に対応できる幅広い知識を習得する。</p> <p>自ら考えて栽培計画や試験研究の実施を行うことで、論理的思考を養うことを目標とする。</p>		
授業内容	<p>1 経営に関する知識の習得</p> <p>(1) 経営者に必要な広い知識</p> <p>(2) 農産物の流通、マーケティングの必要性</p> <p>(3) 生産工程管理と5S (整理、整頓、清掃、清潔、躰) の実践</p> <p>(4) スマート農業の利用について</p> <p>2 情報収集の手法と処理技術の習得</p> <p>(1) 農業経営に必要な情報の集め方</p> <p>(2) 情報処理やプレゼンテーション資料の作成方法</p> <p>(3) 農業経営の収益性、生産性の分析</p> <p>(4) 農業経営診断の指標、手順</p> <p>3 知識や技術の実践力の体得</p> <p>(1) 主要品目の栽培技術習得と経営効果の分析</p> <p>4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養</p> <p>(1) 県内の優良農業経営体の視察調査により経営や指導能力を学ぶ</p>		
教科書 参考書	適宜資料を配布する		
成績評価 の方法	取り組み姿勢 (80%)、知識・習熟度 (20%)		
備 考	<p>参考図書：「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)</p> <p>「農作物病害虫雑草防除指針」「主要農作物等施肥基準」 (千葉県農林水産部環境農業推進課)</p> <p>「野菜経営収支試算表」(千葉県農林水産技術会議)</p>		

エ 研究成果（課題研究）

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (必修科目)	担当教員	各専攻担当
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	調査対象作物・家畜の栽培飼養管理や実験、調査の課題を設定し、自らがやるべきことを考え、適時に調査を行う能力、集計する能力、分析、評価する能力を養う。また、その成果をまとめて効果的な発表を行う能力を身に付けることを目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 対象作物・家畜及び課題の設定</li> <li>2 試験調査設計（材料及び方法、調査項目の検討）</li> <li>3 対象作物・畜産の栽培飼養管理及び調査、データの収集</li> <li>4 調査結果のまとめ、分析・評価、プレゼン資料作成</li> <li>5 課題発表会（1年次：6月）</li> <li>6 中間成績発表会（1年次：2月、2年次：10月）</li> <li>7 研究成果（課題研究）パネル展示（11月）</li> <li>8 研究成果（課題研究）発表会（12月）</li> <li>9 研究成果（課題研究）まとめ（12－1月）</li> <li>10 研究成果（課題研究）提出（1月）</li> <li>11 研究成果（課題研究）・進路報告会（2月）</li> </ol>		
教科書 参考書	各専攻指定		
成績評価 の方法	課題発表会、中間成績発表会、パネル展示、研究成果（課題研究）発表会、研究成果（課題研究）の作成において、総合的に判断する。		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果(課題研究) (作物)(必修科目)	担当教員	藤井 雄樹 太田 和也
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	4単位	時間数	120時間
教育目標	<p>水稲、麦、マメ類、イモ類などの代表的な食用作物について、課題を設定し、栽培を行う。それにより作物の生理生態の知識を応用し、課題解決のための調査・研究を行い、科学的な解析手法を学ぶ。さらに発表を通じ、資料作成や情報収集、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>課題を設定し、作物栽培を通して必要データを収集し、科学的な解析能力を身に付ける。また、得られた結果を分かりやすい形でまとめる能力を身に付け、やや応用的な内容も学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案(品目、内容の検討)</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験栽培</li> <li>5 調査、データの収集 (環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析</li> <li>7 パネル作成と展示(毎年11月中旬)</li> <li>8 課題研究発表会(研究科1年5月、2月、研究科2年10月、12月)</li> <li>9 課題研究提出(研究科2年2月)</li> </ol>		
教科書 参考書	適宜資料を配布する		
成績評価 の方法	研究課題(40%)、課題研究発表会(40%)、取り組む姿勢(20%)、		
備 考	<p>参考図書</p> <p>「作物栽培の基礎」(社団法人農山漁村文化協会)</p> <p>「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・</p> <p>「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)</p> <p>「農作物病虫害雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」 (千葉県農林水産部環境農業推進課)</p>		

授業科目 (履修区分)	研究成果(課題研究) (露地野菜)(必修科目)	担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	4単位	時間数	120時間
教育目標	<p>自身の知識や経験から露地野菜に関する課題を設定し、栽培計画を作成する。課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果としてまとめて発表する。</p> <p>露地野菜経営における課題解決能力を向上する。</p> <p>プロジェクト活動を通じたコミュニケーション力や栽培に必要な観察力や判断力を習得する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案(品目、内容の検討)</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験栽培</li> <li>5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析</li> <li>7 パネル展示</li> <li>8 計画・中間・公開発表会(研究科1年5月、2月、 研究科2年10月、12月)</li> <li>9 研究成果提出(研究科2年2月)</li> </ol>		
教科書 参考書	適宜資料を配布		
成績評価 の方法	取り組む姿勢(40%)、発表会(30%)、研究成果(30%)		
備考	参考図書:「野菜栽培の基礎」(社団法人 農山漁村文化協会)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (施設野菜) (必修科目)	担当教員	江口 菜 江澤 和哉
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>施設野菜経営における課題を把握し、自ら課題を設定し、栽培計画を作成する。計画に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学ぶ。論文としてまとめ、報告することで、課題解決の手法を学び、実践力を養う。</p> <p>施設野菜の生理生態や栽培の基礎及び出荷調製技術等を理解する。</p> <p>課題研究の課題を設定し、栽培計画を作成、課題に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、研究成果（課題研究）としてまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討）</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験栽培・研究</li> <li>5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、 病虫害発生状況等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年）</li> <li>7 パネル展示</li> <li>8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）</li> <li>9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬）</li> <li>10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）</li> </ol>		
教科書 参考書			
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (果樹園芸専攻)(必修科目)	担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>果樹における地域や自らの経営における課題を把握し、計画書を作成する。作成した計画に取り組むことで課題解決の手法を学び、実践力を養う。</p> <p>実験計画法を理解する。 適切な調査方法や調査規模の考え方を理解する。 適切なデータの収集方法、分析方法を理解する。 地域や自らの経営の課題の解決策を提示する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討）</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験栽培・研究</li> <li>5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析</li> <li>7 パネル展示</li> <li>8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）</li> <li>9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬）</li> <li>10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）</li> </ol>		
教科書 参考書	各自の研究内容に適した資料を配付する。		
成績評価 の方法	取り組む姿勢(調査ノート含む) (60%)、研究成果 (20%)、研究成果発表会 (10%)、社稷祭パネル展示 (10%)		
備 考	<p>教職員の定める各提出物の締め切りを遵守すること。 雨天時を除き、実習時間中に成果の執筆作業は行わない。</p> <p>参考図書 各品目の標準技術体系（千葉県）、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部環境農業推進課）</p>		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (花き園芸) (必修科目)	担当教員	田川 和泉 永山 春菜 田川 真子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>課題研究対象の花きの栽培管理、開花調節技術を習得することに加え、自分で考えて課題を進め、問題解決する能力を養成することを目的とする。</p> <p>研究成果作成及び発表にあたり、データの取りまとめや発表会資料の作成を行うことにより発表方法を学び対外的な説明能力を養う。</p> <p>花きの栽培管理や開花調節技術を習得する。</p> <p>自ら課題を設定して、進行計画を作成できる。</p> <p>課題に基づいた調査やデータの取りまとめ方法を習得する。</p> <p>分かりやすい発表方法を習得する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案（作物の選定、内容の検討）</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験栽培・研究</li> <li>5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病虫害発生状況等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年）</li> <li>7 パネル展示</li> <li>8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）</li> <li>9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬）</li> <li>10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）</li> </ol>		
教科書 参考書	「草花栽培の基礎」「花卉園芸学の基礎」「花の小事典」「農業技術体系」（社団法人農山漁村文化協会）		
成績評価 の方法	取組み姿勢、研究成果、発表会、パネル展示		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (畜産) (必修科目)	担当教員	伊藤 香葉 吉田 早希
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和7年度 2か年通年
単位数	4単位	時間数	120時間
教育目標	<p>畜産の生産管理や高度な繁殖技術及び出荷調整技術等を理解する。 課題研究の作成に当たっては、自ら情報収集し、課題設定を行い、畜産生産計画を作成する。これに伴って、課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や発育調査による科学的な分析力を学び、課題研究としてまとめる。</p> <p>畜産の生産管理と高度な繁殖技術等の習得 課題を設定し、調査・分析を行い、調査結果をまとめて研究成果として提出する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報収集</li> <li>2 課題の設定</li> <li>3 試験設計立案（品目、内容の検討）</li> <li>4 試験区設定</li> <li>5 試験栽培</li> <li>6 調査、データの収集、知見 (畜舎・環境条件、飼料分析、生育・肥育・品質調査・伝染病の把握と病気疾病等の発生状況)</li> <li>7 調査結果のまとめ、分析</li> <li>8 パネル展示</li> <li>9 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）</li> <li>10 研究成果（課題研究）提出（1月）</li> <li>11 研究成果（課題研究）進路報告（2月）</li> </ol>		
教科書 参考書	「家畜飼育の基礎」阿部亮他（農山漁村文化協会/2008）		
成績評価 の方法	出席態度 60%、課題研究 20%、発表会 10%、パネル展示 10%		
備考	<p>評価配分は以下の通りとする。</p> <p>○出席態度:60%</p> <p>○課題研究:20%</p> <p>○発表会:10%</p> <p>○パネル展示:10%</p>		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (生物工学) (必修科目)	担当教員	中田 菜々子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>農業における生物工学分野の課題について自ら考え解決する能力を養う。得られたデータを解析し考察することに努め、研究成果を説明する能力を向上させる。</p> <p>課題の設定方法、実験計画の立て方、データのとり方とまとめ方、研究成果の発表方法を理解し実践する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 調査及び実験計画立案</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 実験データの取り方とまとめ方</li> <li>5 研究成果（課題研究）発表会</li> <li>6 研究成果（課題研究）提出</li> <li>7 研究成果（課題研究）・進路報告</li> </ol>		
教科書 参考書	各自の研究内容に適した資料及び論文を配付する。		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、報告書（40%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (病虫害)(必修科目)	担当教員	清水 敏夫
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	<p>病虫害に関する知識の向上と研究手法の習得を図るとともに、成果の取りまとめに関する能力を醸成する。</p> <p>研究成果の作成にあたっては、課題を設定し、研究計画を立てる。課題に対応した調査・研究を行い、結果を適切に解析することにより、科学的な分析力を習得し、研究成果（課題研究）を論文としてまとめる。</p> <p>現地の課題に沿った課題設定を行い、栽培や事例調査等を通じて必要データを収集、データ分析を行い、研究成果としてまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案（品目、内容等の検討）</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験実施</li> <li>5 調査、データの収集、知見の蓄積 (病虫害及び天敵の発生状況、環境条件、生育・収量・品質調査等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析</li> <li>7 パネル展示（社稷祭）</li> <li>8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）</li> <li>9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬）</li> <li>10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）</li> </ol>		
教科書 参考書	各自の研究内容に適した資料及び論文を配付する。		
成績評価 の方法	取り組む姿勢（60%）、報告書（40%）		
備 考			

授業科目	研究成果（課題研究）	担当教員	高田 伯約
------	------------	------	-------

(履修区分)	(土壌肥料) (必修科目)		
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	4単位	時間数	120時間
教育目標	<p>土壌管理及び環境に配慮した農業経営における課題を把握し、自らの課題研究を作成し、計画的に取り組むことで課題解決の手法を学び、実践力を養う。</p> <p>課題内容に基づいた適切な調査方法の考え方や設定方法を理解し、実践する。得られたデータを科学的に分析し、論理的な文章となるよう研究成果(課題研究)をまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 対象作物・肥料等及び課題の設定</li> <li>2 試験設計(材料及び方法、調査項目の検討)</li> <li>3 試験栽培</li> <li>4 栽培管理及び調査、データの収集 (環境条件、土壌分析(化学性、物理性、地温等)、生育・収量調査、病害虫発生状況等)</li> <li>5 調査結果のまとめ、分析(研究科2年)</li> <li>6 パネル展示</li> <li>7 研究成果(課題研究)発表会(12月上旬)</li> <li>8 研究成果(課題研究)提出(1月中下旬)</li> <li>9 研究成果(課題研究)・進路報告(2月中旬)</li> </ol>		
教科書 参考書			
成績評価の方法	取り組む姿勢(60%)、研究成果(20%)、発表会(10%)、パネル展示(10%)		
備考	<p>参考図書</p> <p>「農業技術体系」、「土と施肥の新技術」、「みんなの有機農業技術大辞典」(社団法人 農山漁村文化協会)</p> <p>「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)</p> <p>「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)</p>		

授業科目 (履修区分)	研究成果（課題研究） (食品加工) (必修科目)	担当教員	宮城 美紀子
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	4単位	時間数	120時間
教育目標	<p>農業経営の多角化や、6次産業化の事例や課題に対応した取り組みを行う。研究課題の作成に当たっては、課題を設定し、進行計画を作成する。課題に基づいて調査・研究を行い、農産物に付加価値をつけ農業生産者が実際に活用できる手法を検討し、実施、評価し、まとめる。これらを通じて経営者や指導者に必要な課題解決力を養う。</p> <p>現場の課題に沿った課題設定を行い、栽培や事例調査等を通じて必要データを収集、データ分析を行い、研究成果としてまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案（品目選定、調査内容の検討）</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験栽培・研究</li> <li>5 調査、データの収集、知見 (収量・品質調査、売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年）</li> <li>7 パネル展示（社稷祭）</li> <li>8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）</li> <li>9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬）</li> <li>10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）</li> </ol>		
教科書 参考書	各自の調査内容に関する図書及び文献を適宜配布する		
成績評価 の方法	取り組み姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考	<p>適宜資料配布</p> <p>「食品製造」（実教出版）</p> <p>「新食品成分表」（東邦出版）</p> <p>「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）</p>		

授業科目	研究成果（課題研究）	担当教員	菅澤 太地
------	------------	------	-------

(履修区分)	(情報経営)(必修科目)		
対象年次	研究科1年 研究科2年	期 別	令和8年度 2か年通年
単位数	4単位	時間数	120時間
教育目標	<p>課題設定、調査手法、分析方法を理解し、パソコン操作によるデータ集計と考察・評価を取りまとめる。これらを通じて経営者や指導者に必要な課題解決力を養う。</p> <p>現場の課題に沿った課題設定を行い、栽培や事例調査等を通じて必要データを収集、データ分析を行い、研究成果としてまとめる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定</li> <li>2 試験設計立案（品目選定、調査内容の検討）</li> <li>3 試験区設定</li> <li>4 試験栽培・研究</li> <li>5 調査、データの収集、知見 (収量・品質調査、売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等)</li> <li>6 調査結果のまとめ、分析（研究科2年）</li> <li>7 パネル展示（社稷祭）</li> <li>8 研究成果（課題研究）発表会（12月上旬）</li> <li>9 研究成果（課題研究）提出（1月中下旬）</li> <li>10 研究成果（課題研究）・進路報告（2月中旬）</li> </ol>		
教科書 参考書	各自の調査内容に関する図書及び文献を適宜配布する		
成績評価 の方法	取り組み姿勢（60%）、研究成果（20%）、発表会（10%）、パネル展示（10%）		
備 考	<p>参考図書：「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）  「農作物病害虫雑草防除指針」「主要農作物等施肥基準」  （千葉県農林水産部環境農業推進課）  「野菜経営収支試算表」（千葉県農林水産技術会議）</p>		